

我孫子市立湖北台東小学校

平成29年度 全国学力・学習状況調査

結果分析, 指導改善のポイント



<国語の調査結果に見られる特徴と現状>

国語 A(主として知識)について, 県の平均値と同じ, 全国平均値よりやや高い。

「目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読む問題」や「目的や意図に応じ, 内容の中心を明確にして書く問題」の正答率がとても高い。一方, 「ことわざの意味を理解して自分の表現に生かしたり, 手紙の日付や宛名の位置を書いたりする問題」についての正答率が低い。

学習した内容が日常生活や他教科で生かすこと, くり返し使うことの有無が正答率に影響している。

国語 B(主として活用)について, 県, 全国の平均値より高い。

「物語を読み, 自分の考えを書く問題」の正答率がとても高い。「目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫して書く問題」の正答率が低い。同じような記述式の問題だが「会話文形式の内容から必要な文章を読み取って書くことが苦手であり, 物語文から必要な文章を読みとり書くことはできる。」ということがわかる。

<算数の調査結果に見られる特徴と現状>

算数 A(主として知識)について, 県, 全国の平均値より高い。

「たし算, かけ算, わり算」の正答率が高く, 「資料を読みとり, 答える問題」の正答率が低い。計算はできるが, 様々な資料を読みとり, 複合的に答える問題では低い。

算数 B(主として活用)について, 県, 全国平均値と同程度である。

「計算の決まりについて, キーワードを使って説明する問題」の正答率が高く, 「示された基準を使って, 平均の求める方法を説明する問題」の正答率が低い。「キーワードをもとに自分の考えを説明する。」という本校で行っている学習の流れが定着してきたから正答率が向上してきたのではないかと考える。しかし, 自らキーワードを見付ける力についてはまだまだであるので, キーワードを自ら探しだす力の育成が今後の課題である。

<児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

全国平均や県の平均と比べて「毎日同じ時刻に眠っていない」「学校の授業時間以外の勉強時間が少ない」という児童が多い。

生活リズムを整えることが、学習の重要な要素であることを、児童が意識していけるように、引き続き伝えていきたい。

「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意」では、どちらかといえば当てはまらないが高い。

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」や「友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる」が高い。

授業の中で取り組んできた「学び合い」により、聞くことと自分の考えを持つことが少しずつ向上してきたと考える。発表については、引き続き「学び合い」を授業に入れて発表の仕方を身につけさせることにより自信を持たせて発表させていきたい。

<これまでの改善点 と これからの具体策>

1 算数タイム ・ 校内習熟度評価問題から

- ・昨年度の反省を受けて、週1回→週2回へ
- ・授業で現在進めているものは算数タイムの問題として取り扱わず既習事項の内容を精選して出題。負荷のある難しい問題も出題。
- ・全校一斉で放送を流し、問題に取り組む。10分で解き、5分で答え合わせと解き直しをその場で行う。早くとき終わった児童はかかった時間を書き、自分で答え合わせを行う。
- ・系統性を持たせるために、学期分の算数タイムのプリントを研究推進委員会の全体会で作成。
- ・学期ごとの校内習熟度問題を作成し、職員が、学力定着を評価し、授業の指導改善にいかす。
- ・学年の実態に応じて、算数大会を継続的に行う。算数タイムで誤答が多かった問題を再度出題。

2 日々の授業・校内研究から

校内研究で取り組んできた具体策は①学習課題設定の工夫

②話し合い活動の工夫

③学習課題と児童の学びをつなぐ工夫 である。

いずれも日々の授業で生かしていけるように取り組んできた。これらを受け、各教科において更にあるようなことを行っている。

- ・具体物を利用するなど、実生活に近づけ考えられるようにする。
- ・授業の「予想」を大切に、既習事項を使って問題に取り組ませる。
- ・学習に使う素材を工夫して、生活と結びつける
- ・算数タイムだけでなく、常日頃から授業の改善を図っていく
- ・習ったことのないことも既習事項をいかして解く習慣をつける。
- ・自力解決の前に、課題を解くための見通しをしっかりと持たせていく。
- ・個に応じて、目標を定め、必要に応じて支援を行う。